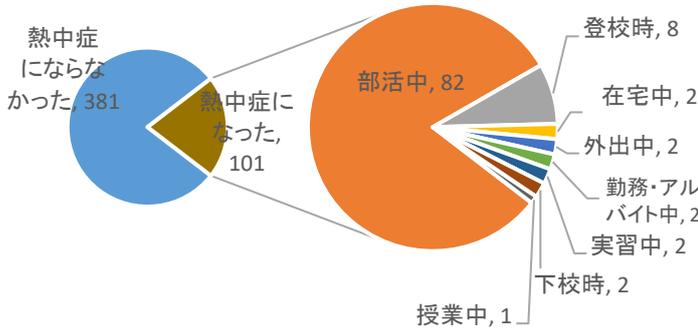


2022年度 熱中症調査の結果

回答数: 482人

- ・体育会クラブ32団体: 446名 (1回生: 143, 2回生以上: 303)
- ・その他36人(一般学生, 体育会サークル)

熱中症症状があった方は どのような場面で症状がありましたか



今回のアンケート結果は一般学生の回答が少なかったため、熱中症発生の大半が「部活動中」の結果であった。熱中症発生の要因として全体の46%が「寝不足」と回答していることは、忙しい大学生の熱中症対策のキーポイントと考える。(＃1)

熱中症が起こった後の対応として、部活中に発生した者の54%が「我慢して部活に参加した」と回答していることから、熱中症への危機感の薄さが分かった。(＃2)

「WBGT」について「知らない」と答えた学生の割合は、1回生が58.5%のところ、2回生以上は33%とかなり差があることから、2回生以上の学生の知識の高さが窺えた。また、大学での熱中症対策の啓発活動は一定の効果があると考えられる。(＃3)

「WBGT」や気温が高い日は何らかの対策を取っているかの質問には、3割弱の学生が「特に何もしない」と回答しており熱中症対策をとってもらうことが必要と考える。(＃4)

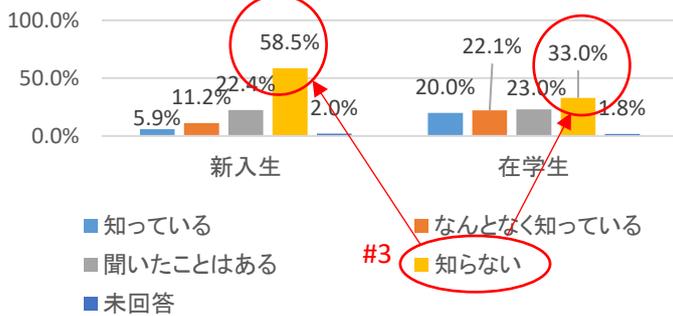
熱中症が起こった要因は ありましたか(複数回答可)



学内で熱中症症状が起こった時 どのように対応しましたか(複数回答可)



WBGT(環境温度)とは 何か知っていますか



WBGTや気温について 外出する前に確認しますか



熱中症に対する危険性を判断 する情報は何で得ていますか (複数回答可)



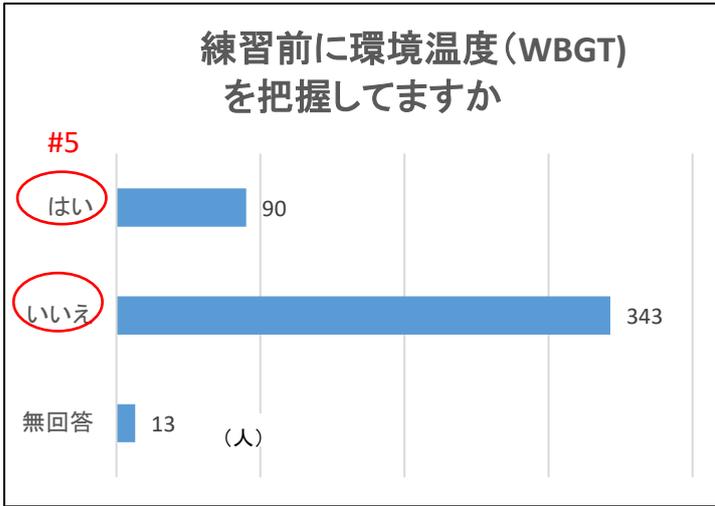
WBGTや気温が高い日は 何らかの対策をとっていますか (複数回答可)



体育会クラブ所属部員

回答数: 446人

- 体育会クラブ32団体: 新入生数: 143, 在学生: 303



練習前に環境温度を把握しているかの質問に、「はい」と回答した90人のうち8割が2年生以上(22団体)であった。また、「いいえ」と回答したのは1年生部員の84%, 2年生以上部員の73%と多くの部員が練習前に環境温度は把握していない事が分かった。(#5)

暑熱純化期間を設けているかの質問では、「設けている」と回答した部員は43%, 「設けていない」は53%であり、同じ部の中でも回答が違っていることから「暑熱純化期間」に対して認識の違いがあることが分かった。(#6)

休憩のタイミングについては、8割弱が30分以内と回答しており適切に水分補給のタイミングを確保できていることが分かった。しかし、60分以上と回答している部があることも分かった。(#7)

